

学校だより 6月号

令和5年5月31日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045 (811) 6710 後期課程 ☎045 (811) 6030

「気持ちのよいあいさつ」から

准校長 川上 公美子

今年度4月に准校長として着任しました川上と申します。先日、緑園学園後期課程の「体育祭」を初めて拝見しました。一人ひとりが最後まで諦めずに全力で走りきる姿や声をかけあう団結力、先輩たちを応援したり、校歌を一緒に歌ったりする前期児童たちに感動しました。横浜市3校目となる義務教育学校、開校2年目を迎えるこの学校で9年生までの児童生徒に関わることができることを大変うれしく思います。前職は教育政策推進課という部署で、主に学校教育計画に係る仕事をしていました。本校で掲げているスクールモットー「自主」「協働」「創造」は、横浜市26万人の子どもたちが目指す教育ビジョンそのものです。「自ら学び、社会とつながり、ともに未来を創る人」の育成を目指して、子どもたち、保護者・地域のみならず、教職員と関わっていきたいと思います。

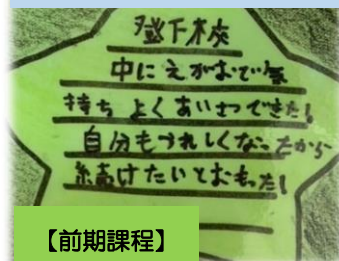
「1000人おともだちになりたい。」「社交的ではないので、声をかけてね。…」前期課程・後期課程の校舎を巡回していると教室や廊下に子どもたちが書いた自己紹介の言葉がたくさんあります。授業中や休み時間の様子を見ていると子どもたちは、人との関わりの中で成長していくのだと、あらためて感じます。嬉しい気持ちになるのも、悲しい気持ちになるのも人との関わりの中です。

緑園学園では、育成を目指す資質・能力に、「自己有用感」や「思いやりの心」「コミュニケーション力」を掲げていますが、学校という小さな社会の中で人と関わり、身に付ける大切な力です。自己紹介にもなりますが、私が10年間勤めた企業では「本当のコミュニケーション力とは何か」という話がよくありました。「相手の興味・関心が高い話題や土俵に自らが入り、相手を感じながら自分の思いや考えを伝えていく力。理性や知性に加えて、感性が加わるとさらに高次元の判断や表現ができる」というのです。豊かな感性は、「その人らしさ」が自然とでてくるのかもしれませんが、そして、理性・知性と感性をつなぐ悟性（ごせい）といった力も求められているという話を思い出します。

登下校時、正門に立っていると、とても気持ちのよい、「その子らしいあいさつ」をしてくれる子どもたちが増えてきました。そして、「気持ちのよいあいさつ」は、コミュニケーションの入り口だと改めて感じました。5月17日(水)にソウルから27名の学校関係者による視察があり、施設案内をしていると、子どもたちは韓国の知らない大人たちに積極的に声をかけます。「ハロー」「こんにちは」「アニョハセヨ!!」「ニーハオ?」と笑顔でどんどん元気にあいさつする様子に、声をかけられた大人たちは驚きながらも自然と笑顔であいさつを交わします。教えなくても湧き上がるようにできあがったその光景は国際交流そのものでした。

6月以降、宿泊体験学習や社会科見学等、さまざまな学習で人と関わる機会があります。いろいろな人と出会い、自らが関わりあって、たくさんの体験の中で子どもたち一人ひとりが「自分らしさ」を大切に学び育つ学校を目指して教職員一同努めてまいります。引き続き、よろしくお願いいたします。

#### 【児童生徒のふり返り】



#### 【前期課程】

#### 【後期課程】

あいさつをする時は「大人」「子ども」など立場が関係なく一人の人間として接することができる。